



ぎんなん

令和4年9月5日
校長 原文也
児童数 474名

学校教育目標 「未来を拓く子どもを育てる三瀧小の全人教育」

2学期の始業式で

35日間の長い夏休みが終わり、8月25日(木)、2学期がスタートしました。始業式では、まず、子どもたちに、2学期も元気なみんなに会うことができた喜びを伝えました。次に、私が、夏休みの間に特に考えたこととして、「ロシアによるウクライナ侵攻」「新型コロナウイルス感染症」「記録的な大雨」「高校野球」を挙げました。そして、次のように話を続けました。

今日は、この中の「高校野球」について、校長先生が感動したことや考えたことをお話しします。

甲子園球場で行われた全国大会は、宮城県の仙台育英高校が初優勝しました。これまで東北地方の高校は、決勝までは勝ち上がるものの、なかなか勝つことができず13度目の決勝で初めて優勝することができました。この優勝は、記録的な大雨で多くの被害に遭われた東北地方の方々を勇気づける感動的な優勝でした。

実は、校長先生がもっと感動した決勝がありました。それは、全国大会の予選である奈良県の県大会の決勝です。天理高校と生駒高校の対戦でした。結果は21対0。天理高校の圧倒的な勝利でした。なぜ、このような一方的な結果になったかという、負けた生駒高校は、準決勝に出場したエースのピッチャーをはじめ、レギュラーの多くの選手が、新型コロナウイルス感染症のため、決勝に出場することができなかったからです。キャプテンの熊田選手は、試合が終わった後、こう言いました。「コロナの影響で出られなかったメンバーもいましたが、そのメンバーには決勝が一番楽しかったと伝えたいです。」そして、後輩に向けて、「2年生のレギュラーは一人だけでしたが、人としていい選手が多いです。1年生は、2年生についていってほしいし、僕よりも人として素晴らしい選手が多いので、頑張ってもらいたい。」と語りました。

勝った天理高校の選手のみなさんにも感動しました。決勝で勝って優勝したら、ほとんどの高校の選手は、ガッツポーズをしたり、抱き合ったりして大喜びします。しかし、天理高校の選手は、喜びの表情や仕草を見せず、淡々と整列し、最後のお礼のあいさつをしました。なぜかという、対戦相手の生駒高校は多くのレギュラー選手が出場できず、ベストメンバーではなかったからです。負けた生駒高校の選手たちの気持ちを考えた思いやりのある行動でした。しかも、このことは、9回2アウトからマウンドに集まって、自分たちで話し合っただけです。生駒高校の選手も天理高校の選手も、「かわり合い高め合う」素晴らしい選手たちだと思います。

私は、奈良県の決勝を戦った2つの高校の選手たちから、多くのことを学びました。そして、このような子どもたちを育てていきたいと強く思いました。

2学期も、気を緩めることなく、新型コロナウイルスの感染防止や熱中症予防に努めながら、「かわり合い高め合う」子どもたちの姿であふれる学校にできるよう、教職員一同、子ども一人一人と向き合っていきたいと思っております。2学期も、どうぞよろしくお願い致します。

地域の方々に支えられ、見守られながら

校区内にお住まいの松村光雄さんから、ご自宅で不要になった衛生用品を寄付していただきました。松村さんは、ウォーキングをしながらゴミ拾いをするボランティア活動もされています。今は、ゴミの多い三藩駅周辺でゴミ拾いをしてあるそうです。ゴミの落ちていない環境で育っている子どもたちは、自然とポイ捨てなどをしないようになります。松村さんのように、校区内には、ボランティアで子どもたちのために様々なことをしていただいている方々がいらっしゃいます。このような方々に支えられ、見守られながら、子どもたちは安全に安心して生活することができ、日々、成長しています。ありがとうございます。

自ら進んで行動し、友達とかかわり合い高め合った自然体験教室（5年生）

夏休みが始まってすぐ7月25日(月)、26日(火)に、5年生は、背振少年自然の家へ行き、自然体験教室を行いました。本年度は、3年ぶりに1泊2日での実施となりました。

1日目、最初の活動は野外炊飯です。お米をとぐ、カレーの具材を切る、かまどで火をおこすなど、どの班も役割を分担しながら活動を進めていきました。手際よく包丁で野菜を切っている子や調理の仕方を友達に教えている子、暑さや煙に負けず薪をくべている子など、普段の学校生活ではなかなか気づかない子どものよさがたくさん見られました。青空の下、班のみんなと苦労して作ったカレーを食べている子どもたちの表情は、笑顔であふれていました。私も子どもたちが作ったカレーを分けてもらいましたが、とてもおいしくお腹一杯になりました。



後片づけも大変です。鍋についた汚れやすすが完全になくなるまでふき取ったり、かまどをきれいに掃除したりして頑張りました。次に使う人たちが気持ちよく使えるように元の状態にしようと、1時間ぐらいかけて後片づけをすることができました。

午後は、緑豊かな背振の自然について、様々な木の実を中心に学びました。普段の生活では気づかない新たな発見がたくさんあり、子どもたちは自然の素晴らしさや大切さを実感していました。



そして、夜はキャンプファイヤー。第1部「迎え火の集い」では、背振の森の中から現れた火の神と火のつかいたちが中央の薪に点火し、みんなで「燃えろよ燃えろ」を歌いました。第2部「友情の集い」では、ゲームをしたり、ダンスを踊ったりして楽しみました。特に、「マイムマイム」のダンスは大盛り上がりで、ノリノリで踊っていました。最後は、第3部「送り火の集い」。みんなで薪を囲みながら、「友達との絆を深める」「協力する」「優しい心をもつ」「最後まで責任をもってやりとげる」「いろいろなことに挑戦する」ことをこの火に誓った後、「炎」を歌ってキャンプファイヤーが終わりました。

2日目の午前の活動は、トレジャーハンティングでした。地図を頼りに、班のみんなと力を合わせて様々な問題に答えながらゴールをめざします。順調にコースどおりに進んで、背振の豊かな自然を満喫できた班もあれば、道に迷ったり、問題の答えが分からなかったりして、なかなか思うように進めない班もありました。大切なのは、どのような状況でも、班のみんなと協力して活動を進めることです。思いどおりにならないときは、どうしても協力することができなくなります。そのような班には、先生たちが話し合いの場を設け、どうすればよいのか子どもたち自身に考えさせ、その後の活動に生かせるようにしていました。



どの班も、自分たちで役割を決めて、限られた時間の中で事前の準備や練習をしたり、当日の活動に取り組みんだりしていました。一人一人が、責任をもって自分の役割を果たそうと自ら進んで行動している姿や友達とかかわり合い高め合っている姿がたくさん見られた自然体験教室でした。2学期が始まって、子どもたちは、キャンプファイヤーで誓い合った「絆・協力・優しさ・責任・挑戦」を大切にして学校生活を過ごしています。